

【教育実践論文(ソニー子ども科学教育プログラム) 審査講評】
2022年度 最優秀校
横浜市立白幡小学校

科学が好きな子ども像として「自覚的な学びのくりかえしによって、日常を科学する子ども」を設定し、明確な研究構想と手立てが記載されていました。論文全体の構成も明確で読みやすく、ノートや子どもの姿の写真もとても効果的でした。

授業実践は子どもの疑問や好奇心を良く捉えており、個々の実践に対する子どもの振り返りなどの記述から変容が読み取れ、かつそれを丁寧に分析されています。

体育科の実践では、子どもたちが主体的かつ科学的な視点でバトンリレーをとらえ、協働して解決をはかり成長を自覚していく姿が読み取れます。水鉄砲やペットボトルの栓を使った実践においては、子どもが興味を継続し、主体的に学びを深め、豊かな表現でノートに振り返りがなされています。どの実践も、子どもが自ら解決方法を考え実験をする姿や、他者と共存した学びの良さ・楽しさを見出し、振り返りで自分の成長を自覚する記述などが具体的かつ実証的に記載されています。また教員側も、成果だけではなく課題もしっかり記載をされており、一緒に学ぶ姿が読み取れ、好感がもてました。

計画も具体的に記載されています。地域のスポーツクラブとの連携やICT機器の更なる活用などや先進的な取り組みや「42色の未来地図」などの多様性を尊重した取り組みもとても興味深く捉えました。「問題解決を理科の学びで終わらせない」というテーマを追究して、学年・学校全体での目標設定や子どもたちが身につける資質能力に関して検討・展開いただくことを期待しております。